

Remain of Large-scale cornerstone building

大礎石群

【時代】飛鳥時代～奈良時代

ここから採集される瓦から飛鳥時代に建築され、奈良時代に建て替えられたと推定しています。

【呼称】大礎石群（だいそせきぐん）

地元の方々によって「大礎石群」と呼称されてきました。

■特別史跡 基肄城跡

National Special Historical Site Kii-jo Mountain Fortress

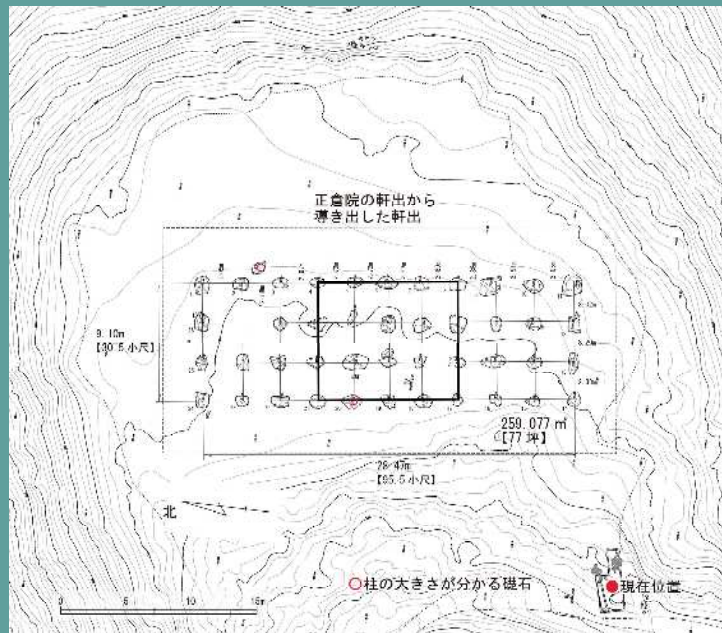
昭和 12 年 (1937) 12 月 21 日 国指定史跡

昭和 29 年 (1954) 3 月 20 日 国指定特別史跡

令和 5 年 (2023) 5 月 29 日 未来に残したい草原の里 100 選



大礎石群全景（上が東）



大礎石群遺構実測図

■建物の柱の大きさが分かる礎石
大礎石群を構成する礎石の中に、2つの礎石に、建物の柱の大きさが分かるモノがあります。

左図の大礎石群遺構実測図に○印で描いた礎石に見ることができます。

柱にかかる重量圧力によって礎石表面が変色したものと考えられます。



大礎石群は、基肄城内で最も規模が大きな礎石建物で、桁間 10 間 (28.47m) × 梁間 3 間 (9.10m) の規模を有し、礎石から導き出される建物面積は、259.077 m² (約 77 坪) を測ります。礎石間の距離は、一見、等間隔のように見えますが、詳細に礎石間の距離を計測すると、桁方向に北から 3 間と中央の 4 間（上の図の太線四角）、そして南からの 3 間で若干の差があります。この柱間の差は上部の建物構造を反映したものと考えられ、このような建物は、奈良県にある東大寺の正倉院にみることができます。

基肄城の最上部に大きな建物を配置することで、基肄城の南に広がる筑紫平野の人々に大和政権の権力を「見せつける城」としての役割を基肄城が担っていたことが分かります。

大礎石群からは、平安時代中期の食器が出土していることから、この頃まで人々の活動があったことが分かります。

QR コード

QR コード

QR コード

QR コード

令和 9 年 (2027) 3 月 基山町教育委員会

※この文化財解説サインは、令和 8 年度歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業（文化庁）補助金を活用し作成しています。